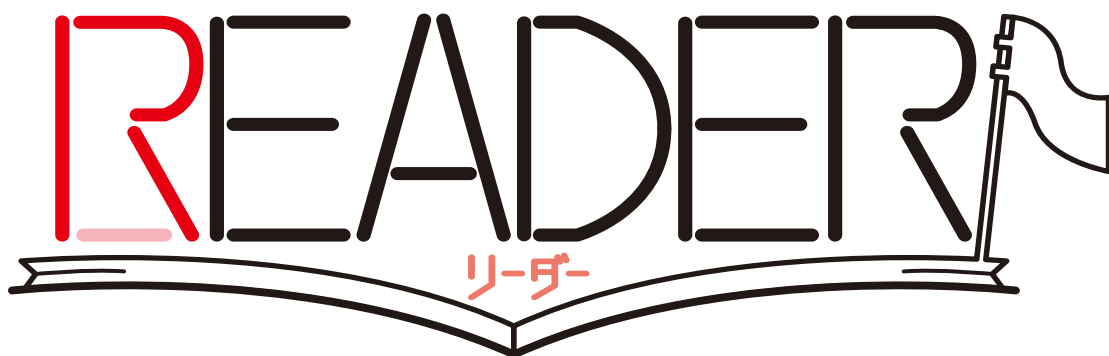


特集

6人に1人の子どもは貧困？

先進国の中でも子どもの貧困率が高い日本で教育について考える
貧困の連鎖は断ち切れるのか？

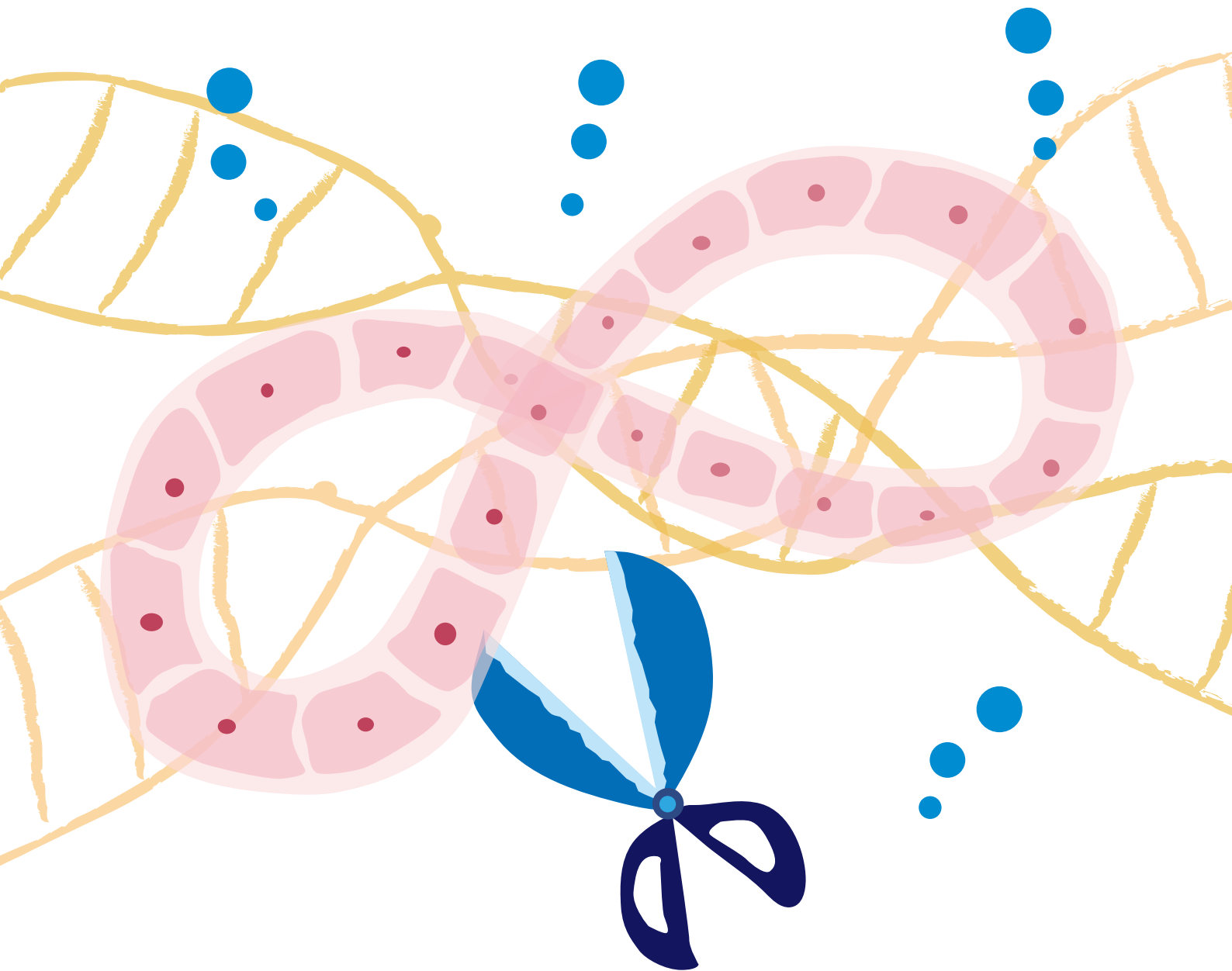
三重県のNPO・市民活動情報誌



2015

1

2014年12月25日発行
通巻193号



2012 年度に厚生労働省が行った「国民生活基礎調査」において、「子どもの貧困率」が 16.3% という数字を示した。これは 2009 年度に行われた調査よりも 0.6 ポイント増加しており、6 人に 1 人の子どもが貧困であるという結果となった。これを受け、国は 2013 年 6 月に「子どもの貧困対策推進法」を成立、翌年の 2014 年 8 月に「子どもの貧困対策大綱」を閣議決定したが、予算措置は脆弱であり、数値目標は明記されていない。子どもの貧困率が先進国の中でも高いこの国で子どもたちの生活や教育はこれからどうなっていくのだろう。

「増え続ける子どもの貧困とそこから生じる教育や進学の問題に何ができるのかを考える」

貧困は日本でも起きている。6 人に 1 人が貧困であるこの国で、子どもたちの教育はどのように保障されていくのだろうか。

子どもたちが貧困により直面する問題の 1 つに教育の問題がある。2010 年度の厚生労働省と文部科学省の調べでは、三重県の一般世帯の「高等学校等進学率」は 98.4% と全国平均よりも 0.4 ポイント高い。しかし、三重県のひとり親家庭の進学率は 83.9%（全国平均 87.5%）と全国平均よりも低く、一般家庭よりも 10 ポイント以上少ない。三重県の母子世帯における就労収入の中央値は 100 ～ 150 万円と全国平均よりも低く、ひとり親世帯となったことが理由で転職した割合は 63% と全国平均よりも約 20% 多い。全国的にみて三重県では、ひとり親家庭で安定した職を得て子どもを進学させていく環境が良いとは言いがたなのが現状だ。その反面「平成 26 年度三重県ひとり親家庭等実態調査」では、もっとも多い悩みに「教育・進学」があがっており、母子世帯では子どもの最終進学目標を「大学・大学院」とするものが、全国調査より 10% 多いという結果になっている。

三重短期大学の教授などを中心に組織されている「生存権がみえる会」という支援団体がある。同会は「生存権裁判^{*}」により生活保護の引き下げ問題が全国で顕在化し、三重県でも問題になってきたことがきっかけで 2013 年 12 月に結成。同裁判の支援や生活保護に関する誤解や偏見をできる限り払拭するような取り組みを行っている。2014 年 11 月にはシンポジウム「子どもの貧困って何？」を開催し好評を得た同会でお話を伺った。

※「生存権裁判」とは…生活保護の改悪は保護を受けている人だけでなくすべての労働者・国民生活の最低保障基準にかかわる問題であるため、生活保護の改悪で高齢加算や母子加算を打ち切られた高齢者や母子家庭 100 人以上が「人間らしい暮らしと生きる希望」をとりもどすためにおこした裁判。

社会を豊かにしていくために どのように取り組むべきか

子どもの貧困と教育を考えたときに問題となるのはお金と環境である。両親が共働きをして大変な状況もあるが、ひとり親家庭の現状はより深刻だ。大学であれば奨学金を借りるなどの方法もある。しかし学費や生活費の工面ができず進学をあきらめるケースも少なくない。奨学金も返済しなければいけないため、卒業してからも資金面の問題は何も解決しない。アメリカでは、「学資ローン返済免除プログラム」として軍隊に入隊することで奨学金の返済が免除される仕組みがある。日本でも非正規雇用が拡大され、子どもの貧困率が悪化しているため、アメリカのような「経済的徴兵制」が導入されるのも杞憂ではないのかもしれないと考えさせられる。

また小学校や中学校などでは、自宅での学習環境が整わないという問題もある。親が勉強を教えるということではなく、親が「勉強をしましょうね」という時間管理やルールを設けるといったことが大切なのだが、明日をどう生きぬくかと向き合っている低所得の中でそれは簡単なことではない。

貧困で教育が受けられないことで、本来、子どもたち自身が持っている多様な選択肢や自己決定権がどんどん失われていくことになる。これは子どもたちの責任ではなく、社会全体の大きな課題である。

高等教育は本来、社会を豊かにしていく人を育てるために社会としてどのように取り組むべきかを体

現する場所でなければいけない。しかしどうしても大学に行くのは個人の勝手というように自己責任として捉えられてしまい、学習環境を確保する公的な支援がほとんどされない。これは高等教育だけでなく子育て支援にも言えることである。子どもをたくさん産んだ人は、自己責任で産んだのだからお金がかかってもしかたないというように、全ての政策が同じ目線でつくられている。これでは人口減少も人口流失も止めることができず、優秀な人材を育成することもできないのではないだろうか。

生活保護費の引き下げによって起こる 玉突き事故

貧困と切り離せないものとして「生活保護」がある。ここで少しでも生活保護の引き下げについて触れておきたい。どうしても生活保護の引き下げは生活保護を受けている人のためだけのものという意識を持ってしまいがちになる。しかし生活保護の金額は、生活保護基準という国の定める条件で計算されているため、生活保護費が引き下げられたことにより、玉突き事故のように、公共料金や保育料などの値上がりに影響が生じていることを多くの人は知らない。メディアはそのことをあまり報じないし、生活保護といえば不正受給か貧困に焦点を当てた二極化の報道が多く、本来の生活保護費の目的である“自立していくために一時的に経済的支援を受けること”についてはあまり触れられていない（経済的に苦しいため生活保護制度を活用し仕事を探したりすることは経済的自立である）。生活保護を受けている方の大半は自立を目指そうとしている人たちであり、子どもの貧困を解決するためには親の貧困を解決しなくてはならない。「玉突き事故」を回避するため、そして子どもの貧困をなくすためにも、生活保護基準を引き上げて親の貧困の解決を図る道筋をつけていかなければならない。

「貧困」は「格差」ではない

子どもの貧困と教育の問題についての解決策のひとつとして、市町ごとにある就学支援の制度を活用する方法があるが、現実はその制度を知らない人たちが大半だ。行政はもっと積極的に情報を出していき、各世帯がその制度を利用できるのかできないのか

かを判断してもらうことが必要となってくる。

また、もっとも子どもたちにアクセスしやすいのは学校であるため、たとえばソーシャルワーカーを配置することで、専門知識に基づいて対応でき、教員や関係機関との連携ができるだけでなく、家庭に深く関わることもできる。変化をしたいと思って

いる親も多いと思われるので、親の想いや子どもの想いを適正な手段と結びつけていく役割がスクールソーシャルワーカーに望まれる。

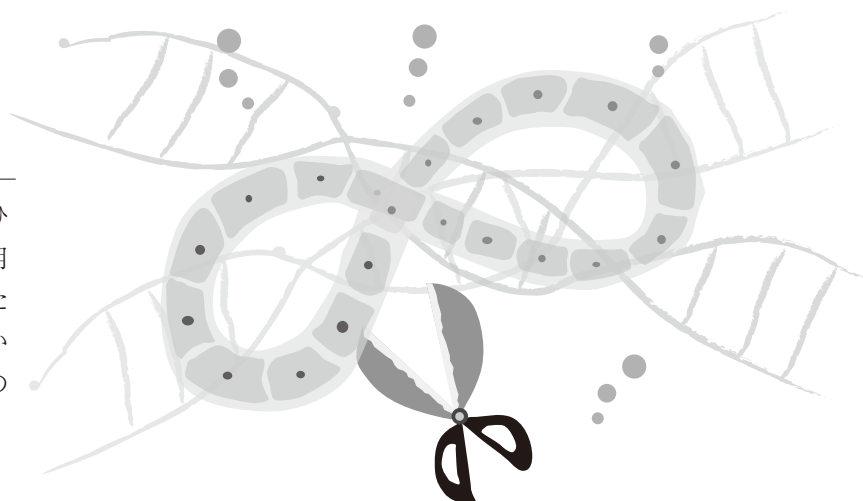
もしもボランティアで学習支援の機会を作るのであれば、子どもたちには自宅で学習していくという経験が、親には子どもが学習する時間を作らないといけないという意識が芽生える仕掛けが必要となる。学習支援を行う場合の指導員には教員OBや大学生に協力してもらい、多様なつながりと多様な価値観を生み出す環境をつくることで、子どもたち自身が苦しい環境の中で何ができるのかを考えられるようになる。

「格差」と違い、「貧困」というのはあってはならない状態である。憲法の前文にも、全世帯の国民がひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利があると謳われている。欠乏という言葉が貧困に位置する言葉になるが、いまは格差という言葉で濁されている。大人になる上での準備期間。進学したくてもできない学生たちはたくさんいる。人生の選択肢が増えるような制度を整える責任が大人たちにはある。

(川北)

<取材・資料提供のご協力>

- ・生存権がみえる会 様
- ・三重県健康福祉部 子ども家庭局 子育て支援課 様



おしえて! その取り組み

今号は 2015 年スタートの号（1 月号）ということで、特別企画を組みました。その名も「おしえて！その取り組み」。県内の NPO が関わっている取組について関連団体の方に執筆をお願いしています。今回は、NPO 法人 M ブリッジの理事長である米山哲司さんにフューチャーセンターについて書いていただきました。



失

敗事例を語るとき、耳にする言葉に「井の中の蛙だった」がある。地域づくりも、課題解決も、新ビジネス創出も同じである。世間ニーズに合っていない場合、独りよがりであることが多い。たとえば、ミーティング。延々とひとりで語り続ける人物もいれば、一度も口を開かず会議を終える人物もいる。一緒に考え、主体的になるためにも、対話が生まれるような工夫が必要であろう。「井の中」であるかどうかは「多様なセクターと対話できているか」で語るができそうである。

「多様さ」と「対話」

ブ

ブレインストーミング

「ブレスト」と略されることの多いブレインストーミングは多くの方々をご存じだろう。米国広告代理店 BBDO 社の副社長をしていたアレックス・オズボーンが考案した発想、価値創造の技法である。会議がクリエイティブであるために 4 つの約束を提唱している。「①判断はあとに（途中での批判禁止）②突飛さ歓迎 ③質より量 ④他者に便乗」の 4 つである。1938 年（昭和 13 年）の技法は今でも各セクターで有効に活用されている。そのブレストの 4 つの約束も「多様さ」と「対話」から成り立っている。すなわち、70 年以上前から「井の中」でないことの重要性を教えてくれているのである。



多

「人」から考える

「多様さ」と「対話」の大切さは、地域づくり、NPO 活動、担い手づくりでも同じことが言える。ISO26000 も円卓会議も、それらが原点にあり、それを推進する「人」と「場」が必要となる。「人」とはファシリテーターである。語りすぎる人には場の空気を読んでいただき、語るのが苦手な人には語りやすくなるよう導く。立場や地位、性別などを越えて交流し、他セクターの言葉に耳を傾ける人が必要である。思い返してもらいたい。ワンマンなリーダーが語り続ける会議は愉快だっただろうか。そこに明るい組織や未来が生まれただろうか。語りやすい空気づくりとは、スタッフや職員を大切にしている証でもある。ファシリテーターの存在、もしくはファシリテートのスキルのあるリーダーの存在により対話が始まる。



で

「場」から考える

「場」はどこにあるのでしょうか。「産・官・学・民」の多様な方々が集まりやすい場とはどこなのでしょう。誰もがお越しいただけるためには、公共交通機関で行くことができ、バリアフリーであることが求められる。長時間使用できることも必要であろう。公共施設をいくつか思い出してもらいたい。これらの条件にあたる場所が対話するテーマを持ち込みやすい「場」であろう。



「〇を増やすこと」と「×を減らすこと」

場

「場」は常設もしくは定期開催であることが求められている。単発のイベントでは課題となるテーマを気軽に持ち込みにくいからである。テーマとは「〇を増やすこと」か「×を減らすこと」になるであろう。「〇を増やす」とは、ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスを育むこと、新商品開発に市民ニーズを聴くということであろう。「企業とNPOの連携」にも繋がる。各セクターの社会貢献を育む一歩ともなるだろう。「×を減らす」とは課題解決である。行政もNPOも課題解決のために活動している。官民連携が期待できる。いずれもが、地域づくりを担う人を育むこととなる。行政にとって「郷土愛のある県民」が増えること、企業にとっては「愛社精神のある社員」が増えることは豊かなことである。



フューチャーセンター

こ

のような対話から課題を解決したり、新しいアイデアを共有したり、という場はどこにあるでしょうか。「行政の広聴の仕組み」や「企業やNPOのニーズ調査」にも有効なフューチャーセンター、フューチャーセッションを紹介したい。「多様さ」と「対話」の場をフューチャーセンターといい、そこで行われる行為をフューチャーセッションという。フューチャーセッションとは、対話するテーマに関係がある人もない人も、年齢や性別に関わらず、それぞれの視点、情報、経験を持ち寄り、次世代や未来へ繋げ話し合うことである。企業、市民活動、主婦、学生、行政などが立場を越え、未来がより良くなるアイデアや意見を交換する。ワンマンな会議や聴くだけのセミナーとは異なり、アイデア創出の手法を取り入れることで、笑い声も飛び交う場となる。そのフューチャーセッションを実施する場をフューチャーセンターと言う。現在、実施している「少子化対策フューチャーセッション」でも、「自分の考えを話す」、「他者の考えを聴く」、「一緒に考える」という様子である。この3つこそ未来の地域づくりに有効な仕組みだと感じる。少子化対策フューチャーセッションのアンケートや参加者の感想で「こういう場は初めてで緊張しましたが、本当に楽しめました！」「いろいろな世代の方とお話ができてとても楽しかった。気づきもたくさんありました！」などの感想があった。



「フューチャーセンター」という聴きなれないカタカナ語だが、まずは一度どういうものかを知っていただきたい。

「多様な方々との対話で未来を創る場」は、新たな広聴の仕組みであり、産官学民の連携を育む仕組みである。

執筆：NPO法人 Mブリッジ 米山哲司・石丸隆彦

少子化対策フューチャーセンターのご案内

津

平成 27 年 1 月 9 日 (金) 13:10 ~ 15:40
三重県総合文化センター 県文化会館 2 階
大会議室 (津市一身田上津部田 1234)

<テーマ>

【困難を有する子どもたちについて】
ひとりで悩まないで！みんなで支えて、みんな
が笑える地域づくりってステキじゃない？

伊賀

平成 27 年 1 月 15 日 (木) 13:10 ~ 15:40
ハイトピア伊賀 3 階 コミュニティ情報プラザ ホール B
(伊賀市上野丸之内 500 ハイトピア伊賀 3 階)

<テーマ>

【子育てについて】
あなたの「これがあったら嬉しいな」、「こんな子
育ていいんじゃない？」をみんなでシェア！

伊勢

平成 27 年 1 月 13 日 (火) 13:10 ~ 15:40
三重県伊勢庁舎 4 階 第 401 会議室
(伊勢市勢田町628番地2)

<テーマ>

【結婚について】
あなたが思う「理想の出逢いの場」、「結婚に
はこれが必要！」って？

尾鷲

平成 27 年 1 月 20 日 (火) 15:00 ~ 17:30 (予定)
※変更の場合は連絡いたします
熊野古道センター (映像ホール)
(三重県尾鷲市向井 12-4)

<テーマ>

【家族・地域の絆について】
子どもは家族の宝。家族はもちろん、地域の
みんなで育てていこう！

【申込方法】

- 〇電子メールの場合
 - ・氏名 (ふりがな) ・性別 ・年齢
 - ・電話番号 ・メールアドレス
 - ・参加会場 (〇月〇日〇〇地「フューチャーセッション」または「地域別懇談会」の別)
 - ・託児希望の有無 (有りの場合はお子様の人数と年齢)
- をご記入の上、三重県 健康福祉部 子ども・家庭局 少子化対策課まで。
☑ shoshika@pref.mie.jp

【詳細ホームページ】

<http://csrsuishinshitsu.jimdo.com/futurecenter/>

三重ぐるり

MIEGURURI

「三重ぐるり」のコーナーでは、毎月テーマを1つ設け、そのテーマに沿った三重県内の市民活動団体を紹介しています。今号のテーマは【子どもの貧困・教育】。貧困問題や学習支援、地域づくりなど子どもをとりまく多様な課題解決のためにさまざまな活動が行われています。「子どもの貧困」に真摯に取り組むそれぞれの活動や団体の声を県内各地の市民活動（支援）センターを通して集めました。

特定非営利活動法人 津子ども NPO センター

情報提供：津市市民活動センター



（きいてほしいな…）
はなすだけ！
チャイルドライン MIE
0120-99-7777
月曜～土曜日のこの4時～この9時まで毎日かけられます（12月29日～1月3日は9時）
通話料無料

はなすだけでいい
こどもほっとダイヤル
0800-200-2555
毎日この1時～この9時までかけられます（12月29日～1月3日は9時）
チャイルドヘルプライン

ひとりで悩まないで
どんなことでもいい
話したくなるとき
電話してね
あなたはひとりじゃない

サポート：子どもの心を受け止めるネットワークあえ
通話先：〒514-0125 津市大里窪田町 2709-1

チャイルドライン MIE
主催：NPO 法人
チャイルドライン MIE ネットワーク

こどもほっとダイヤル
主催：三重県
受託：NPO 法人
チャイルドライン MIE ネットワーク

毎年、小・中・高校、特別支援学校などを通じて県内の子どもたちに配布しています。

ひと言 PR!

地域の方々すべてが子育て支援者です。豊かな地域社会をつくるために、ぜひ養成のための研修会にご参加ください。お待ちしております。

現在、子どもを取り巻く環境の変化はめまぐるしく、親子をはじめ子どもと大人の関係、子ども同士など、人と人との関係性の不具合が多く見られます。津子ども NPO センターは、「子どもの権利条約」を理念の中心に置き、子どもが豊かに育つ社会を目指しています。例えば 10 年以上にわたり「チャイルドライン MIE」の津地域実施組織を担い、子ども（18 歳まで）のありのままを受け止め受容する電話を実施しています。さらに子どもの SOS に応え、子ども主体の問題解決のためのヘルプライン「こどもほっとダイヤル」、お互いさまの地域づくりを進めるファミリーサポート事業、社会的養護を充実させる里親事業、児童養護施設の子どもたちへの学習支援、子どもにとって大切なあそびを発信する津市まん中こども館の管理運営など子ども主体のさまざまな事業を展開しています。子どもと大人が対等な関係で地域をつくり、子どもが安心して豊かに育つ社会が実現できると信じ、今日も活動を続けます。

津市大里窪田町 2709-1

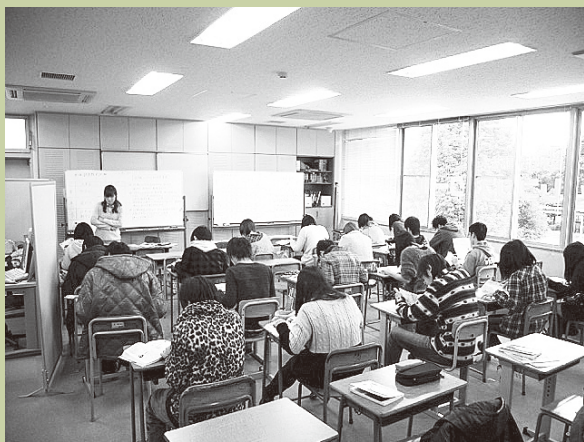
☎ 059-231-0012 FAX: 059-231-0013

✉ kodomo@za.ztv.ne.jp

URL: <http://www.za.ztv.ne.jp/kodomo/>

特定非営利活動法人 チャレンジスクール三重

情報提供：松阪市市民活動センター



スクールのようす

ひと言 PR!

津市の小学校の一部を借り、再来年の開校を目指しています。定員 120 名で県域から通学生を募る予定。現在、学校設立に向けた支援として、寄付やボランティアなどの協力を募っています。詳細はお問い合わせください。

「チャレンジスクール三重」は、主に高校の不登校生や中退者のためのスクールです。県内の高校の不登校生、高校中退者の数は依然として高くなっています。親の貧困、対人関係の難しさ、情緒不安などさまざまな悩みを抱える若者が増えているのが原因です。このような既存の教育システムの枠から外れてしまった若者の居場所づくり、高校卒業資格の取得支援を目的に設立されたのが同法人です。いま、同法人では新しいタイプの通信制高校の設置に向けて動いています。一般的な通信制高校では、それぞれの課題を克服できず進路未定のまま卒業する生徒も多く、将来の希望が持てない、社会へ出てても定職につけないなどの課題が指摘されています。それらの解決へ向け、一人一人と深くかかわることができる通学できる通信制高校として、画一的なカリキュラムではなく、学力差のある子どもそれぞれに適した学習指導や、「生きる力」を養うキャリア教育にも力を入れていく予定です。

松阪市嬉野町 1430 一志久居教育会館 2 階

☎ 0598-42-8174

URL: <http://www.chmie.jp/>

地域コミュニティ講座～国際交流員と 対談してみませんか？



今年も多文化理解のためのコミュニティ講座を開催いたします！今回は、三重県在住の国際交流員の方に講師を行っていただきます。3人

の講師を迎え社会問題について対談する2時間です。海外のことについて知りたい！お話してみたい！という方は是非ご参加ください。

- 日時** 1月24日(土) 13:30～15:30
- 場所** アスト津3階交流スペース
- 参加費** 無料
- お問い合わせ** みえ市民活動ボランティアセンター
- TEL** 059-222-5995 **FAX** 059-222-5971
- MAIL** center@mienpo.net

「NPO 会計サポーター養成講座」 途中報告



10月より実施している「NPO 会計サポーター養成講座(連続7回講座)」も12月3日時点で残り1回となりました。定員15名のところ19名の方に受講いただいております。中尾講師(NPO法人ボランティアネイバース 理事)から、会計サポーターとして必要な知識などを吸収しております。2015年1月には、受講者の皆様に相談員として、実際に会計相談に乗っていただく予定です。場所は、いなべ市、四日市市、津市で開催予定です。

リーディング産業展・大縁会に 参加しました



四日市ドームで行われた「みえリーディング産業展2014」、伊勢サンアリーナで行われた「三重県民大縁会～縁ジョイ！みえの地域づくり～」にブース出展しました。

リーディング産業展では、NPOだからこそ企業に提案できることの紹介やNPO月間のPRを行いました。大縁会は、華やかなステージ発表が行われるなど地域を盛り上げるコーナーが盛りだくさんでした。

市民活動・NPO 月間の報告



県内各地で行われている「市民活動・NPO 月間」の協力企画に参加してきました。市民の交流を深める地域のフェスティバルや、団体のリーフレットづくり、市民活動向けのワークショップ、助成事業など、様々な取り組みが行われていました。

みえぎんNPOローン

好評取扱中

委託金、助成金等の受け取りまでの「つなぎ資金」として最高1,000万円まで無担保でご融資！

対象：三重銀行の三重県下営業エリア内に主たる事務所を有するNPO法人

※ただし、当行所定の審査の結果、ご希望に添えないことがあります。

“地域とともに” “みなさまとともに”

詳しくはTEL059-354-7130(審査部)まで
URL: <http://www.miebank.co.jp>



三重銀行

三重県の新名物

伊勢おやき本舗

年齢、国籍、性別、障害の有無にかかわらず
ともに働き、ともに成長する「ユニバーサル就労」の店



イベント出店、ご当地おやきの開発など、各種御相談に応じます。

四日市市諏訪栄町3-4 TEL/FAX 059-355-5115 ssk21www@yahoo.co.jp

助成金情報

助成金情報はみえ市民活動ボランティアセンターホームページでも多数ご紹介しております

① 締め切り・募集期間 ② 対象 ③ 助成金額／表彰内容

ハウジングアンドコミュニティ財団 第23回公募「住まいとコミュニティづくり活動助成」

- ① 1月20日(火) 必着 ② 市民主体・住民主体のまちづくり・地域づくり活動に取り組む NPO・市民活動団体
③ 1件の上限 100 万円

スポーツ安全協会 平成27年度スポーツ普及奨励助成事業 募集

- ① 1月23日(金) 必着 ② 法人格を有するスポーツ・レクリエーション等生涯スポーツ関係団体
③ 青少年スポーツ振興事業: 上限 500 万円(補助率 50%以内)、
スポーツの振興に関する研修会・研究協議会等: 上限 100 万円(補助率 50%以内)

中央共同募金会 赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート基金」(ボラサポ) 第16次助成

- ① 1月9日(金)～1月23日(金) 必着 ② ボランティアグループ、NPO 法人等
③ 短期(30日未満): 50 万円以内、中長期: 300 万円以内

アステラス製薬 2015年度スターライトパートナー患者会助成

- ① 1月30日(金) 当日消印有効 ② 患者または患者家族の会、患者会の連合組織など
③ 1件の上限 50 万円(総額 850 万円)

三菱UFJ国際財団 国際交流事業一般公募助成

- ① 1月30日(金) 当日消印有効 ② 国際理解・国際交流の推進となるような研究事業または海外交流事業を行う非営利団体
③ 事業費用の不足分を助成

明治安田クオリティオブライフ文化財団 平成27年度「地域の伝統文化保存維持費用助成」

- ① 1月30日(金) 当日消印有効
② 地域の民俗芸能または地域の民俗技術の継承、とくに後継者育成のための諸活動に努力をしている団体・個人
③ 民俗芸能の継承: 1 件の上限 70 万円、民俗技術の継承: 1 件の上限 40 万円

スタッフレーム

はじめまして、9月よりみえ市民活動ボランティアセンターのスタッフとなりました中島です。どうぞよろしくお願いいたします。さて、今月号のテーマは「子どもの貧困・教育」です。現在日本で子どもの貧困率は約6人に1人とされており。貧しい家庭では十分な教育が受けられず、成人しても安定した職業につけずその子どももまた貧困となってしまう。このような負の連鎖を断ち切るために政府は「子どもの貧困対策大綱」を平成26年8月29日に閣議決定致しました。スクールソーシャルワーカーの増員、高校生への奨学金給付金の増額、児童養護施設に暮らす子どもの学習支援等子どもへの支援のみならず、保護者の生活支援、就労支援、学び直しなど親への支援にも重点を置かれています。子どもは産まれてくる家庭を選べません。産まれた家庭で教育を受けられないなどあってはならないことです。子どもたちには十分な教育を受けてもらい、夢を追いかけ続けてもらいたいものです。(中島)

認定した 特定非営利活動法人

① 法人名 ② 主たる事務所の所在地 ③ 活動分野 ④ 認証年月日 ⑤ 代表者

- ① 特定非営利活動法人
成年後見支援センターれんげ
② 津市城山3丁目9番20号
③ 保健
④ 2014年11月13日
⑤ 理事長 横山 秀樹

- ① 特定非営利活動法人 なないろ
② 伊勢市宇治浦田2丁目4番24号
③ 社会教育、学術、人権、国際、
男女、子ども、科学技術
④ 2014年12月5日
⑤ 理事長 長田 朗

- ① 特定非営利活動法人
わたげよっかいち三重
② 四日市市桜花台二丁目16番地3
③ 保健、まちづくり、人権、
障がい者の自立と共生社会
④ 2014年11月26日
⑤ 理事長 瀬谷 尚隆



転載を希望の場合は必ず「みえ県民交流センター指定管理者:みえ NPO ネットワークセンター」に連絡してください。

READER はこちらにあります。

【地域の市民活動センター等】(津 市)みえ市民活動ボランティアセンター/津市民活動センター/三重大学/看護大学/三重短期大学/高田短期大学 (桑名市)桑名市民活動センター (いなべ市)いなべ市民活動センター (東員町)とういんボランティア市民活動支援センター (四日市市)四日市市なやプラザ/四日市大学 (亀山市)亀山市民協働センター (鈴鹿市)市民ネットワークすずかのぶどう/鈴鹿国際大学/鈴鹿医療科学大学 (松阪市)松阪市民活動センター (伊勢市)いせ市民活動センター/皇學館大学 (志摩市)阿児アリーナ/横山ビジターセンター (名張市)名張市民活動支援センター/エコリゾート赤目の森/名張市立図書館/名張青年会議所/名張市総合福祉センター (伊賀市)伊賀市民活動支援センター/伊賀市立図書館/伊賀青年会議所 (尾鷲市)東紀州コミュニティデザイン (明和町)めいわ市民活動サポートセンター (南伊勢町)南伊勢町町民文化会館 (紀宝町)紀宝町ボランティア市民活動センター

【地域の社会福祉協議会】県内の市町社会福祉協議会

【金融機関・企業等】百五銀行各店/第三銀行各店/三重銀行各店/東海労働金庫各店/県下JA/バンク各店/メディカル光各調剤薬局

【行政機関等】三重県庁県民ホール/三重県地域機関(地域防災総合事務所(桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊賀) 地域活性化局(南勢志摩、紀北、紀南))/三重県米町庁舎(情報公開窓口)/三重県総合医療センター/三重県立一志病院/三重県立志摩病院/三重県立こころの医療センター/三重県立こころの健康センター/斎宮歴史博物館/三重県立博物館/三重県立図書館/三重県生涯学習センター/三重県男女共同参画センター「フレンドみえ」/三重県人権センター/三重県身体障害者総合福祉センター/三重県環境学習情報センター/三重県立熊野古道センター/各市町役場/各市町中央公民館など

協賛

みえ市民活動・ボランティアニュース発行にあたり、協賛をいただいております。

キラリと光るあなたの銀行
第三銀行

三重銀行

百五銀行
FRONTIER BANKING

健康・安心・貢献
東海ろうきん

JAバンク
三重県下JA/JA三重信連

株式会社
阪本事務機



環境にやさしい植物油インキを使用しています。